

「戦争が始まるかもしれない」姉の学校に来たロシア人の留学生が家に泊まりに来た時、とても深刻そうにこう言っていたのを私は鮮明に覚えている。当時中学生だった私は実感もなく、他人事のようにしか思っていなかった。彼女は戦争の話以外にも、彼女の故郷や家族の話幸せそうに話していた。彼女が故郷に帰ってから数年がたち、彼女と連絡がとれなくなり、2022年2月、私はニュースでロシアのウクライナ侵攻が始まったことを知った。そのニュースを知った時、すぐに私は彼女のことを思い出した。

彼女はロシアの中の、ウクライナに近い地域に住んでいると言っていたため彼女の安全がとても心配になった。その時に私は戦争が自分の身近で、実際に起こっているということを実感した。

それから時間がたった今も、彼女の安否は分からないままだ。学校の授業やテレビで戦争の被害に遭った地域の写真や映像を見ると、前に彼女が幸せそうに話していた故郷も同じようになっているかもしれないと思うととても心が痛くなる。彼女の気持ちになっても自分の故郷が戦争で被害に遭ったらと思うと私では想像もつかないくらい絶望と喪失感に襲われるだろう。彼女の安全や、故郷のことを考えると、私はすぐにでも戦争が終わってほしいと思っている。

日本ではこのウクライナ侵攻を遠目に見ているだけなのか。もし日本で戦争が起きたらどうするのか。日本は原子爆弾が落とされ、日本国内でも戦争や核兵器反対を掲げている人が多くいるのが現状である。

5月19日に行われた67広島サミットで、67首脳は「核軍縮に関するG7首脳ビジョン」を発表した。ここでは被爆地で核兵器による惨禍の実相を直視することは、核軍縮を進める上で極めて重要であると考え、日本政府には「核兵器のない世界」の実現に向けた粘り強い外交努力を求めている。それにもかかわらず、現状の日本は核兵器によって防衛力が高まると核兵器による抑止力を事実上肯定している。それに加えて日本は核兵器禁止条約に参加していない。日本は被爆した唯一の国で被害者もたくさん出ているのにもかかわらず、国の安全のためには核兵器があったほうが良いと考えている。私はこの事実にとっても不満を感じる。日本は唯一の被爆国であるからこそ、最前線で非核について全世界に発信していくべきではないのか。実際に被害を受けた広島や長崎では「怒りのヒロシマ、祈りのナガサキ」などの言葉があるように反核運動、核廃絶運動が行われている。今でも戦争、被害を体験した人の講演や言葉を次の世代につなげていこうとしているのは、昔被爆した時と同じ事を次も起こらないようにするためではないのか。同じ様に大量の被害者を出さないためなのではないか。日本だからこそ、彼らの声をもっと日本の社会情勢、政治にもっと取り入れるべきだと私は思う。日本の安全のために核兵器」を持っているとしても、もしかしたら自国が持っているその核兵器が他の国を脅威にさらしてしまうのではないかと思う。日本に限らず他の国も名目上抑止力のために核兵器を所有しているが、その核兵器が脅威になる恐れもある。それを防ぐには、抑止力のためにむしろ核兵器を持たないようにすればよい。そうするためには全ての国が核兵器を手放すことが大切だと思う。全世界での非核の第一

歩として世界的に経済力、軍事力の高い先進国から核兵器を手放すべきだ。日本は先進国との交流も深いため、被爆した唯一の国として、非核を全世界に訴え、説得していくべきだ。政府がもっと国民の声を聞き、非核に動いていけばいいと思う。世界でもっと非核が進み、戦争で苦しむ人、被害者が減るように私は祈っている。